

令和7年度 延岡市立恒富中学校 学校関係者評価書

段階評価	4 期待以上	3 ほぼ期待どおり	2 やや期待を下回る	1 改善を要する
------	--------	-----------	------------	----------

本年度の重点目標 【心の教育の充実】 【学力向上】 【組織の活性化】

評価項目	評価規準	学校の自己評価コメント	自己評価	関係者評価	学校関係者評価コメント ○よい ●改善 ◎意見
心の教育の充実	① 生徒会・委員会活動など経験する場の意図的な設定と積極的な称賛の実施	○生徒会役員は昼休みほぼ毎日集まって活動している。 △役員が頑張りすぎているようで心配な面がある。 ▼場を意図的に設定することができなかった。	2.8	2.9	○生徒が自主的に集まることは良いことだと思う。 ○自主的に率先して活動する姿が見られ、リーダーとしての自覚をもって全校生徒をリードしていた。 ●明確な目的をきちんともってもらいたい。 ◎役員も人に任せる勇気が必要かも。
	② 「挙手・発言」のある授業の実施	▼挙手する(できる)生徒に偏りがある。 △教師側からの「挙手・発言」場面は設定でき、促すことはできた、生徒自らが意欲的に挙手して発言するまでには至っていない。	2.5	2.4	●発問の工夫の共有が行われると良いと思う。 ●何事にも積極性をもってもらいたい。 ●学年によって差があるようだ(できている学年とそうでない学年がある)
	③ 生徒会活動・委員会活動を通したリーダーの育成	○委員会活動による呼びかけと、確認の実施ができた。 ○第1学年は学年集会の企画・運営についても主体的にできた。 △与えられた仕事をこつこつやれる生徒は多いが、リーダーの育成は不十分である。 △与えられた役割は概ね果たすことができていたようだが、自ら考えて行動することまではいかなかった。	2.6	2.6	○与えられた仕事をコツコツとできることは良いことだと思う。 ○生徒主体の活動の機会や場を可能な限り設定され、リーダー育成に取り組んでいる。 ●生徒会の活動は活発なので、プラスで役割と責任を明確化するとよいと思う。 ◎リーダー像が凝り固まっているかもしれない。意外な生徒にみたりと、運営側もチャレンジしてみるのもありだと思う。 ◎生徒会活動や委員会活動などを見る機会がほしい。
	④ 総合的な学習の時間、学校行事等への当事者としての参画	○協力して参加できる生徒が多い。 ○生徒たちが自分事として活動することができた。 ○意欲的に参加できている。	3.0	3.4	○学校行事で見る子どもたちの様子はいきいきとして、見ていて心地よい。 ○人間的成長の場となっているのではないかと。 ○協力するということが昨今減っているもので、すごくよいこと。
	⑤ 地域の人材・企業との連携の充実	○はげまし隊の方に複数教科でサポートをいただき、充実した教科指導ができた。 ○昨年に引き続き、キャリアデザイン学習や職業講話など計画的な運営ができていた。	3.0	3.6	○はげまし隊の存在・サポートは、授業を進める上で欠かせないものになっている。 ○連携の結果が感じられていてよいと思う。 ○大変充実した地域人材・企業との連携を築かれている。 ○他校でもこのような活動が始まってきたようで、恒中が先駆けですばらしい。

学力向上	① 学習規律の確立	△学年によつての差が大きい。(第1学年は概ねはじめのある学習態度が身につけている、第2学年はまだまだできていない生徒が多い。) △教師側から声をかけるとできるが、生徒同士での働きかけはできていない。	2.4	2.4	○教師側から声をかけてできるのは良い。 ●学年差があり継続的な指導が肝要。共通理解のもと、一貫性のある指導を強化すべき。 ●生徒同士の思いやりがあるとよい。 ●自ら取り組める・興味をもてるような日常の仕掛けが必要ではないか。 ◎保護者アンケートの学習面において、「期待を下回る」という回答比率が上がっているのが気になる。 ◎態度の悪さを耳にすることがあった。先生方も苦慮されているのでは。
	② 反復学習による基礎・基本の定着	○各種調査において、概ね地区平均や県平均を上回ることができた。 ○授業の帯活動として基礎基本の部分を復習している。 ○定期テスト等で定着が見られる。 ○基礎・基本の定着に向けた手だては計画的に行うことができた。	2.8	3.1	○学力が向上している(地区平均や県平均を上回る)のは良い。ますます頑張ってもらいたい。 ●低学力傾向の生徒への基礎・基本の定着を重視してほしい。 ◎何事も基礎は大事。その後応用へ。
	③ ICTの適切な活用	○主題研で年間計画にICT活用の場面を設定した。 ○授業の中で使う機会が増えた。 ▼ルールを守れない生徒への指導等で使うのをやめた授業がある。	2.9	2.7	○教科によって差異はあるが、よく活用されているのではないかと。 ●使用ルールの徹底が必要。また、守れない生徒に対する対応等も必要。 ◎ICT教育の大切さが伝わってなかったのか。
	④ 一人1回の研究授業の実施	○実施することができた。 ○他の先生方の授業を見る機会となり良かった。 ○授業を一緒に改善するチャンスとなった。 △生徒の予想される発言や行動を想定した展開であったが、うまく授業を進めることができなかった。	3.1	3.3	○授業を考えるきっかけとなっていて良い。 ○授業が公開されると学ぶことが多く、有意義である。 ◎研究授業の準備に過剰な負担がかからないように、取り組みやすい環境を整えたい。 ◎研究授業が見てみたい。
	⑤ 教職員による授業参観期間の設定	○空き時間を使って参観することができた。 ▼何度かは見に行けたが、時間に余裕がなかった。 ▼見に行く時間がなかなか取れなかった。	2.9	2.6	○先生同士研鑽を重ねるためにも、お互いの授業参観はよいことだと思う。 ●参観者が少ない授業もあったようなので、次年度の課題としてほしい。 ◎大人が見に行っただけで子どもも緊張してよいので、地域の方も参加できるとよい。
	① 余裕を持った準備と企画会議への計画的な提案の励行	○計画的に作成することができた ▼ギリギリの提案となる行事が多かった。 ▼準備計画表をもとに打ち合わせをしたが、学年行事に追われ、バタバタと学校行事が行われた感じがする。	2.6	2.7	○多忙な中、先生方が頑張っている。 ●先生方の多忙化につながらないようにしてほしい。(余裕がもてるような日程調整・時間配分をしてほしい)
	② 記録をもとにした報告・連絡・相談の励行	○知りえた情報を学年主任、生徒指導主事、管理職へ随時報告することができた。 ▼各学年・職員で「報告・連絡・相談」に差が見られた。	2.9	2.7	●「報連相」は社会人としてのルールなので、生徒へ指導する立場の先生方にはお手本を示してほしい。 ●判断が難しいことも多くあると思うので、相談しやすい雰囲気が大切だと思う。

組織の活性化	③ PDCAサイクルによる組織力向上	△前回の反省をいかした計画は立てられているが、実際行事等では反省までしてそれきりになっているものが多い。 ▼引き継ぎがうまくできていない行事があった。	2.7	2.7	○概ねPDCAによる組織運営が功を奏している。 ●前年度の反省を確認するのがよい。反省が活かされていないのは残念。 ●次の計画につなげるためにも、問題点の改善や次の成功に向けた計画を立てることが必要。 ●改善点があれば具体的な事例に沿って再検討してほしい。
	④ 予備時数の見直しとノー部活動デイの設定	○部活動をもつ先生方にとってよい時間になっていると思う。 ○学期始めや終わりの5時間授業はゆとりがあつて助かる。	3.1	3.4	○先生方の負担が少しでも軽減されているのであれば何より。 ○働き方の改善の観点からも実践されていると思う。 ○結果を感じられているので良いと思う。
	⑤ リフレッシュデイの完全実施	○早く帰ることを意識し、概ね実践できている。	3.2	3.4	◎先生方がゆとりをもってお仕事されることを切に願う。 ◎働き方改革は先生・生徒・学校にとって良い方向に向かっているのか。 ◎夕方残っている先生が少ないように見える。リフレッシュして、また、生徒と向き合う時間が持てているのであればよいのだが。

[次年度の方向性についての校長所見]

※ 学校関係者評価を令和8年度の学校経営ビジョンに具体的に反映させていく。

※ 特に以下の項目については重点的に取り組む。

【心の教育の充実】 1:自己肯定感・自己有用感の育成 2:帰属意識の高揚

【学力向上】 1:基礎・基本の定着 2:指導力の向上 ※校外の研修への積極的な参加

【組織の活性化】 1:校務部会・学年会の充実 2:各組織の主体性の向上 3:働き方改革の推進